

令和3年度教育事業
そにとつとキャンプ
～出会いのキャンプ～



1. ねらい

- ・新しい仲間と出会い、親交をもつ。
- ・みんなで協力する気持ちを培う。
- ・やり遂げることの喜びを感じる。
- ・自然（光、風、水、草木）を体感する。

2. 実施日

6月12日（土）～6月13日（日） 1泊2日

3. 対象者

発達障害のある小学校3～6年生

4. 参加者 / 募集定員

12名 / 12名

5. プログラム（要約）

「そにとつと」のキャラクターを活用した、ストーリーキャンプを行った。活動全体においては絵カードや「そにとつと」からのメッセージ動画を用い、活動の流れを子どもたちに示し、見通しをもって活動できるようにした。また、「キャンプのやくそく」により具体的な行動を示し、キャンプリーダーのサポートを受けながら初めて出会う仲間と協力し、スモールステップで達成感を積み重ねた。

スケジュール

6月12日（土）1日目

- 「はじまりの会」
- 「そにとつとウォークラリー」
- 「ナイトハイク」
- 「ふりかえり」

6月13日（日）2日目

- 「野外炊事」
- 「ふりかえり」
- 「おわりの会」

6月12日（土）

「チームそにとつと」として、国立曽爾青少年自然の家が集まった12人の参加者は、「そにとつと」からのミッションDVDを視聴し、今回のキャンプでのめあてを確認した。はじまりの会の後、「となりのとなり」など、ゲームを通してアイスブレイクを行った。

その後、班ごとに7か所のポイントを探しながら自然の家各所を巡る「そにとつとウォークラリー」に出発した。班の仲間と声をかけあい、協力してアスレチックで遊んだり、実際に薪割りをしたりしながら、キャンプのリーダーや友だちとの関わりを深めていった。ウォークラリーの途中には、宿泊棟に入ってベッドメイキングをするミッションなどもあり、楽しみながら施設を知ることができた。

夜は、「ナイトハイク」を行った。お亀池周辺を散策し、自然の家に戻ってくるコースをたどったが、日中とは違い、暗闇の中を慎重に進んだ。山の斜面には野生の鹿もいて、子どもたちは驚きつつも喜んでいった。



6月13日（日）

2日目のミッションとして、野外炊事でちゃんこ鍋作りを行った。各班でカマド係と調理係に分かれて作業を進めた。自分が担当する仕事が一段落した子どもたちの中には、進んで鍋や調理器具の洗い物をしたり、かまどの掃除をしたりする子もいて、スムーズに活動が進み、予定よりも早く野外炊事を終えることができた。その後のふりかえりでは、キャンプのプログラムを思い出しながら、それぞれの頑張ったことを模造紙に書き起こすことで確認し合い、それを踏まえて次の冒険のキャンプに向けた目標を各班で話し合った。

6. まとめ

新型コロナウイルスの影響で、マスクや手洗い、消毒の徹底、3密の回避などの感染症対策をとりながらのキャンプであったが、参加者はそれぞれに「ミッション」を乗り越え、リーダーや同じ班のメンバーとのコミュニケーションを深めた。

時には同じ班の仲間と意見が合わず、感情のコントロールがうまくできずに話し合いに参加できない場面もみられたが、次回の「冒険のキャンプ」では、さまざまな「ミッション」をみんなで乗り越えることでより大きな達成感が味わえるようなプログラムを準備したい。

（企画指導専門職 福島 茂樹）